



図書館 だより

図書館 ☎69・3706

「おしえて!図書館」

Q 家の近くで本を借りたいな。でも、図書館まで行くのは少し遠いです…。どうしたらいいの?

A 図書館には市内に7カ所の分室があります。お近くの分室にぜひどうぞ。



絵本や
紙芝居もあるよ♪



図書館と同じように本を借りたり、気になる本を予約したりと、お気軽にご利用くださいね。(CD や DVD など視聴覚資料は予約で取寄せします。) 規模は図書館に比べると小さいですが、各分室の利用状況にあわせて、月に一度本の入替えをしています。

〈図書館分室〉

- ◆大塚公民館分室 (大塚町)
☎59・8290
- ◆東部公民館分室 (豊岡町)
☎69・8295
- ◆三谷公民館分室 (三谷町)
☎69・8294
- ◆南部市民センター分室 (竹島町)
☎69・8293
- ◆太陽の家分室 (形原町北浜)
☎57・7115
- ◆蒲郡文化広場分室 (形原町袋川)
☎57・7116
- ◆西浦公民館分室 (西浦町)
☎57・7119

利用時間は、火・水・木・土の午後2時から5時30分(太陽の家分室は午後2時30分から6時)です。

※分室の休みは図書館休館日と金曜日、日曜日、祝日です。9月は特別図書整理休館で分室は9月20日(金)から9月30日(月)までお休みです。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

「タツノオトシゴで至福」

■Kさんからの提供

「今回はうまくいったよ。エサを変えようまくまくいったよ。エサを交換したからうまくいったよ。なかなかうまくいったよ。」と市内の銀行員Kさんが、笑顔のうまくいったよおじさんと化して『タツノオトシゴの赤ちゃん』を持って来てくれた。一般家庭でタツノオトシゴを繁殖させるのは至難の業で快挙。Kさんとは私が水族館に勤めた当初からの知り合いで、魚飼育の極意を何も知らなかった私を自宅に何度も招待し、水槽を見せ、飼い

方を教えてくれた師匠的存在の方。昔からタツノオトシゴの繁殖を生徒のテーマの一つとして生きている。

タツノオトシゴをうまく飼うには栄養価の高い生きたエサが不可欠なので、私は水族館の貯水プールで勝手に繁殖している小さなエビをせっせとかき集めエサとしてKさんに提供し、代わりに繁殖した際には水族館に赤ちゃんを分けたいとだけ、という秘密条約を結んでいたのでした。

■ビールに匹敵

今年の2月に生まれた赤ちゃん

で大きさ2センチほど。閉館後の水族館で2人して赤ちゃんを眺めてさまざまな話をする。半魚人の身としては文句ないひと時。多くの働くお父さんにとって一生懸命働いた後のビールは至福のひとつ。タツノオトシゴの赤ちゃんというのも至福のひとつなのだ。思わず仁王立ちで腰に手あてて袋の水ごと一気飲みしてしまいたい。いや、飲んでどうする、飼わねばならん。

■赤ちゃんの飼育

いただいた貴重な赤ちゃんの様子を見るため、いきなり展示には出さず展示裏の水槽でしばらく溺愛することにした。毎日出勤してその水槽を眺める。目をクリクリさせてこちらを見つめてくる。

これを幸せと言わずして何と云おう。仕事の空き時間にエサを与える。おいしそうに食べて笑顔でこちらを見つめてきて「ありがとう。おいしいよ」と言ってくる(ような気がする)。そんなタツノオトシゴの表情に展示裏で一人ウヒヒビヒッと心の中で笑う。これを幸せと言わずして何と云おう。とにかく、その赤ちゃんは可愛くて毎日の世話が楽しい。暗くジメジメした展示裏は一瞬にして私の周りだけお花畑に変わり、明るい光の束が無数に差している気さえする。今度はウヒヒではなくウヒヤヒヤと心の中で大きな声で笑ってしまふ。しかし、こんな風に裏側でタツノオトシゴを見つめてニヤニヤしている光景はあまり人には見られたくない光景である。